

## 目指す姿の共有

# 9年間を見通した校内研究

隣接する中学校の校内研究主任と連携を取り、小学校と中学校の校内研究会を自由に参観し合えるようにしました。9年間を見通して児童生徒の学びの姿を見取れるように、それぞれの校内研究が目指すゴールも共有しました。

児童が主体的に取り組み、いろいろな気付きをしているのが印象的でした。めあてから児童が考え、目的意識をもって取り組んでいました。きめ細かな机間指導や授業支援アプリの活用など、中学校での授業に生かしていきたいと思えます。



小学校の授業を参観する中学校の教員

■小学校 校内研究だより

# ふたば

R4. 11. 2  
No. 1 6

## 小中連携より

5月にもお知らせしたように、■中学校との校内研究の連携も進めています。■先生には社会科、■先生には理科、■先生には体育科の授業公開を引き受けていただきました。校外学習等お忙し中でしたが、小中連携を深めるために授業提供いただきありがとうございます。校内でも参観いただいた先生もおられますが、行きたかったに…という先生方もおられると思いますので、参観された中学校の先生方の感想を紹介することで授業のイメージを持っていただけたらと思います。

■先生の備前と■の子のパワーがマッチしてよかったです。本物に触れる体験が何より子どもたちのキラキラした瞬間でした。この時間だけではもったいないくらい貴重な教材です。

実際の自動車車の部品の解体することで、技術力の向上に迫る授業展開でした。部材だけでなく、事故が減少していることがわかる資料なども提示され、社会科として資料活用的大事が図られました。

本時のめあては教師側がしっかりねらいを持ちながらも、子どもたちが自分たちで考えたかのように決めていくところが参考になりました。自分たちで考えためあてなので、意欲的に取り組めると思いました。実物もとても関心が高まるのでよかったです。準備も大切だと思いました。実物から技術力の高まりを際るのは難しいと思いましたが、気づきたくさん書いていた子は、■の車の部品の新・旧の写真を比較して、「メーターの色が違う。今は見やすい。」などと気づいている感じでした。新・旧と比較しやすかった資料だから気づきが多いと思いました。

小中連携の成果を校内研究通信でお知らせ

目の前の児童にどのような力を付けていくべきなのか、そのためにどのような授業改善が必要なのか、PDCAサイクルの視点をもつことができました。互いに授業を参観し合うことで、授業づくりについて学びがありました。さらに、授業改善にとって、まず児童の実態を把握をすることが大事であることが実感できました。

(E小学校 校内研究主任)